

年間第3主日A

マタイ4・12-23

今日は年間第三日曜日です。今日の福音は、私たちのキリスト教生活にとって重要なことを教えています。一つは、イエス様が「悔い改めよ。神の国は近づいた」と言って、福音を述べ伝え始められたことです。もう一つはイエス様が福音を伝えるために何人かの人々を、ご自分に従ってきて、一緒に働くようにと召されたことです。

イエスはペテロとアンデレ、ヤコブとヨハネ、そして他の人々を「人間をとる漁師」になるように呼びました（マタイ4・19）。使徒として召されたこれらの人々は、イエスの救いの業をともにおうことになったのです。

今日の福音書を読んだとき、私は、なぜイエスがこの漁師たちを選ばれたのか、その理由をととても知りたくなりました。この物語を読んだときに私は子供時代を思い出しました。私は幼い頃、よく川へ釣りに行きました。よく釣れる日もあれば、全く釣れない日もありました。釣りの醍醐味は、魚が餌に食いついたときでした。釣った魚をおばあちゃんのところに持っていくと、彼女はその魚でとてもおいしい料理を作ってくれました。この幼少期の体験から学んだことは、釣りをするときには、なんとか魚をつりあげたいという情熱と魚がかかるまでじっと待つ忍耐が必要だということです。

聖書の解説者ウィリアム・バークレーという人は、今日の福音書の一節を解説する中で、良い漁師は、次のような資質を持っていると言っています。福音書の中で、イエスが4人の魚をとる漁師に「あなたがたを人をとる漁師にしよう」と呼びかけたときに、これらの人々は六つの資質を持っている、と述べています。これらの六つの資質は次のようなものです。

第一はよい漁師には**忍耐**があるということです。魚が餌に食いつくまで漁師は忍耐強く待つことです。もし、魚がかからないと落ち着きがなく、すぐに、漁をする場所を変えて動いてしまうような人であれば、人間をとる漁師にはなれません。人の良い漁師は忍耐を持たなければなりません。正直に言いますと、私たち司祭は、時にこの資質を持っていません。私たちは、自分の仕事の結果をすぐに期待し、求めます。今日の福音は、私たちが待つことを学ばなければならないことを教えています。私たちはもっと忍耐強くなる必要があることを思い出させてくれます。

第二は、よい漁師はときに**勇気**を出す必要があることです。漁師は雨や風の強い日、また朝早く暗闇の中でも海に出て漁をしなければなりません。その昔、ギリシャ人は海へ行く前にこう祈ったそうです。

「海の神よ、私の船は小さく、海は大きいです。私を守り、導いてください」。漁師は見えない危険を覚悟して、海の猛威に立ち向かわなければならぬのです。キリスト者であるためには、時にさまざまな危険のあるこの世界で生きていく勇気が必要です。そして、そのような危険なときでも、神は私たちを決して見捨てないということを忘れてはなりません。

第三は、よい漁師は時を、正しい瞬間を見極める目をもっていることです。賢い漁師は、漁をしても魚がとれない絶望的な時があることをよく知っています。あみを投げてはいけないうちを知っているのです。イエスの弟子として、私たちは真実を語るよう求められているのです。しかし、真理を語る時、私たちは時と場所をよく弁え賢く、聡明である必要があります。時には、語りすぎることなく、沈黙を守ることも必要です。また、真理を話すべき正しい瞬間、正しい時を選ぶことも必要です。

第四は、よい漁師は魚にあわせて餌を播く方法を知っていることです。ある魚はある餌に、別の魚は別の餌に寄ってきます。私たちは宣教するとき、いつも同じアプローチではすべての人をイエス様のところに連れてくることができないことを知っています。

私たちは、自分自身の限界を知り、限界を認識しなければならないかもしれません。しかし、神さまは福音を伝える人に応じてアプローチを変える方法を私たちに示してくださるのです。私たちは、自分自身が働ける領域とそうでない領域があることを発見しなければならないかもしれません。

第五は、賢い漁師は魚をとる自分の姿が見えないようにすることです。もし漁師が自分の存在を、自分の影さえも押し出すなら、魚は間違いなく食いつきませんし、逃げてしまうでしょう。

私たちが世界で使命を果たすとき、常に自分ではなく、イエス・キリストを人に見せようとしているのでしょうか。私たちを見るのではなく、私たちを支えてくださっているイエス様の姿が人々に見えているのでしょうか。私たちは、福音宣教するときイエス様を優先し、常に背後にいななければならないのです。

今日、私たちも良い漁師の資質である、忍耐、勇気、ときを見極める目を持つことができるように祈りましょう。また、そのような資質を持って生きることによって、イエス・キリストを証しすることができるように祈りましょう。

Lazun naw san Vincent (pime)